

## 安全衛生管理の取り組み

労働災害を撲滅し、安心して働ける職場環境をより確かなものにするため、毎年課題を検証し改善を繰り返すことで、レベルの向上を図っています。

### ▶安全衛生基本方針と安全衛生行動計画

三井金属グループは、2001年4月「安全衛生基本方針」と「安全衛生行動計画」を策定し、安全衛生活動を推進しています。毎年年末には1年間の安全活動と安全成績を解析して総括し、その結果に基づいて翌年の「全社安全衛生基本目標と基本目標を達成するための重点実施事項」を決定しています。

#### 2009年全社安全衛生基本目標

##### 全社安全衛生基本目標

1. 作業者は「作業変化点KY (危険予知)」を常時実践し、安全作業する。
2. 管理・監督者は、「危険源」を特定し、「危険源」からの「RA (リスクアセスメント)」と「リスク管理」を行ない、休業災害につながるリスクを無くす。
3. 事業部長・所社長は、KYやRA、リスク管理などの安全衛生重点行動計画の進捗状況のCAを行なう。

##### 基本目標を達成するための重点実施事項

1. KY活動
  - (1) 次の作業の前に一呼吸置いてKYを行ない、危険を想定して回避し安全作業をする。
  - (2) 具体化したリスクに対しては、上司に報告して対策を講ずる。
  - (3) 全ての職場で4R・KYTの訓練を月1回以上行なう。
  - (4) 自問自答カードで、一人KYを習得し、「作業変化点KY」に繋げる。
  - (5) 管理・監督者は、問い掛けKY、個別KY、健康KYで指導する。
  - (6) KY委員会等にて、KY活動の停滞、衰退、マンネリへの対応を行なう。
2. RA
  - (1) RAの漏れ落ちによる災害発生を無くすため、「危険源」を特定し、その「危険源」に「人がどう関わるのか」の観点でRAを実施する。
  - (2) RAの結果、リスクレベルの高いものには、優先順位を決め、予算化してハード対策による本質安全化を図る。

### ▶労働安全衛生関連研修会と安全監査

#### 研修と監査を重ね、職場への定着を図っています

労働安全衛生法令遵守を推進するため、2004年から全所社を対象に労働安全衛生関連法の研修会を開催しています。

2008年は、安全衛生関連法令の現場担当者研修会を7所社で開催するとともに、各所社での現場実践教育、本社での階層別安全教育・研修などを実施しました。

また、リスクの高い所社では毎年1回、その他の所社でも2年に1回は安全監査を計画・実施しています。現地では、リスク評価、危険予知、ヒヤリハットなどの安全活動の状況、労働安全衛生法等の遵守状況を確認すると同時に、システムとの整合性をチェックし、システムの定着を通して各所社の安全成績向上のための取り組みを支援しています。

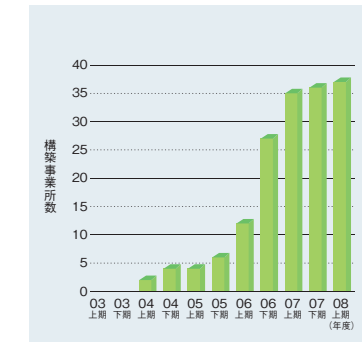
### ▶労働安全衛生マネジメントシステム

#### 具体的行動計画へ反映し成果をあげています

三井金属グループでは、労働安全衛生マネジメントシステム (OHSAS18001) を安全で働きやすい職場環境を作りあげる仕組みとして、安全衛生行動計画に織り込み、全所社での構築を進めてきました。

2008年7月で対象とする37所社すべての構築が完了し、現在、システムの定着に向け、定期的なRAの実施や内部監査の実施、KY活動の推進等に取り組んでいます。

OHSAS18001構築実績



### ▶安全成績

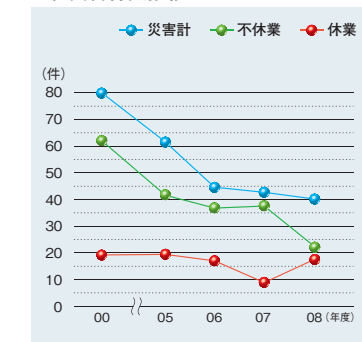
#### 基本行動の遵守をさらに徹底します

2008年のグループ全社災害件数は、40件と過去最低となりました。内休業災害は、15件と昨年より大幅に増加しました。

災害の分類では、「不安全行動」起因の災害が50%と例年同様に多く、災害の型別では「挟まれ・巻き込まれ」が20%と最も多い状況です。

足元の問題としては、KY不足や安全基本ルールが守られていないなど、「もう少し注意すれば防げた災害」が多く発生していること、また、その災害発生件数の約半数以上が、経験年数の浅い未熟練者の災害ということがあげられます。

全社災害件数推移



### ▶安全への取り組み

#### 日常にひそむリスクの低減に努めています

三井金属グループ各所社では、災害予防 (予防安全) に重点を置いて取り組んでいます。RAを実施し、リスクの大きい不安全状態にある設備を改善するとともに、KY活動で不安全行動が原因の災害を低減する活動を継続しています。

各所社では、「目に訴える安全の仕掛け」を展開し、全社統一の「安全基本ルール」や「安全最優先」の大型掲示板の標示、災害発生場所の標示、横断歩道や階段での指差呼称項目の標示などを実施しています。また、安全衛生意識や感受性の向上を図るため、階層別安全教育やKY教育、安全体感教育を実施。さらに、RAやKYTの一環として、安全対話パトロールなど、現場担当者との対話・コミュニケーションに重点を置いたパトロールを実施しています。



安全体感教育 (ヘルムとブーリーによる挟まれを体験)